

## 特集

## 大学生協の変遷と新たな可能性

近年、大学や大学生を取り巻く状況が大きく変化している。大学では組織改革や地域への貢献、あるいはグローバル化が求められるようになり、経営的にも厳しい状況になりつつある。一方、大学生はというと、大学を活用して留学や地域貢献などに励む学生も増える傍ら、経済的に厳しく卒業時には多額の奨学金の返済が待ち構えているという学生も多く存在する。一昔前とは、大学も大学生も大きく変わってきていることが窺える。この状況下において、大学生協は大学や大学生とともにどのような事業運営や活動に取り組んでいくことができるだろうか。

まずは、大学生協の変遷を知るために大学生協と地域生協の歴史的関係について、文献を調査し、生協総合研究所の小塚和行氏にお話を伺った内容をもとにその意義を就実大学の加賀美太記氏に論じていただいた。次に、現在の大学生の実態を分析すべく、龍谷大学の細川孝教授に、大学生協が実施している「学生生活実態調査」から見る大学生の現状について

ご寄稿いただいた。そして、近年の大学生協と地域生協の取り組みとして、一般社団法人 協働・夢プロジェクトについて、プロジェクトの発足経緯や現状をお話いただくために、全国大学生生活協同組合連合会東海ブロック事務局長の石橋一郎氏にインタビューを実施した。最後に、国際化する大学に大学生協がどのように対応していくのかを議論するために、京都大学生協の中島達弥専務理事にご寄稿いただいた。

また、近年の若者が地域で活躍している様子を「くらしと協同をたずねて」のコーナーで紹介することとした。地域振興や地域活性化に関わりたいという思いのある学生は増加傾向にあるが、生活していくには困難な面もまだまだ多い。そこに協同組合が関われる可能性を秘めているのではないだろうか。大学、大学生協、地域生協が協力して将来の人材を育成していくことに貢献できれば幸いである。

(本誌副編集長 青木美紗)

1. 大学生協と地域生協のつながりと可能性  
～1960年代以降の地域生協設立支援から考える (加賀美 太記)
2. 全国大学生協連の二つの調査からみえてくる「大学生のいま」  
～「2014年大学生の意識調査報告」と「学生の消費生活に関する実態調査」 (細川 孝)
3. 協同の担い手を育てる大学生協の取り組み (下門 直人)
4. 国際化する大学への生協の対応を考える～京都大学生協の事例から (中島 達弥)